

通学路説明会での質疑応答、意見等要旨（令和5年2月25日）

方針について	回答
1 子どもの数が少なくなると廃校にするという方針なのか。	学校間が大きく離れており統合再編が困難な場合、過小規模によるデメリットを補う手だてを考える必要がある。鼓阪の場合は佐保小学校と大きく離れている状況ではないため、統合再編により教育環境を良くしていきたい。
2 校区の見直しなど、他の手法はないのか。	100年前に佐保小学校が開校した際、鼓阪小学校から佐保小学校に校区が移った地域における児童の数は20人前後である。仮にこの地域を再度、鼓阪小学校校区に編入したとしても過小規模状態は解消できない。
3 逆に佐保小学校を鼓阪小学校に持ってくることはできないのか。	地理的な条件、現在の学校規模、校舎建て替えのための敷地の条件等を考慮し、佐保小学校敷地内での統合という判断をした。
4 学校から遠く離れた地域は過疎化が進んでいくと思う。地域活性化についてはどのように考えているのか。	学校規模適正化と併せて、まちづくりも考えていく必要があると考えている。いただいたご意見については、教育長、市長の方にも伝えておく。
5 統合ありきで進んでいる印象だが、地域、保護者の声を反映し、統合をやめるといふ考えはあるのか。	統合再編をする方向で進めていきたい。今後、新しい学校を良い学校にしていくため、通学路の安全確保も含めて、新しい学校の校舎や実施する教育等について、ご意見いただきながら進めていきたい。
6 統合することに関しては、大筋で決まっているということか。	将来的に子どもの数がさらに減少していくことが明らかな状況であり、学校規模を適正化するために統合再編する方向で進めたい。

教育について	回答
1 小規模校のマイナス面として、子ども同士での学習の教え合いや協働経験の不足、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい等の説明があったが、根拠はあるのか。	小学校時代に接する子どもの数が少なければ、多様な考えに触れる機会が減り、集団活動でもできることが限られ、意見が偏り、役割が固定化される等の課題が出てくる。集団の中で活動できる能力が身につけにくい環境であると認識している。
2 子ども同士の様々な関わり合いや活動の幅を担保することのほか、学力をつけさせることが学校の一番大きな目標であると思うが、過小規模である鼓阪小学校で、学校教育活動上の弊害は出ているのか。	以前は、学力として知識理解の要素が重視されていたが、これからは、知識の活用や思考判断、アウトプットする力が必要になる。その中で、先生と学ぶというより、子どもたち同士で学び合う教育活動が重要になってくると考えている。20人程度の学級の授業を見ていると、色々な子の意見を聞く機会が増え、学びが深まっており、機能的であると感じる。クラスの数が増えると、より良くなっていく部分があると感じる。
3 40人学級を35人学級にしたとしても教育的効果に有意な差はなく、20人程度の学級では少人数学級としての教育的効果が表れるということがデータで示されている。人数が少なすぎると多様な学びの場が担保されにくいとのことだが、佐保小学校と統合されると1クラスは30人程度となり、望ましい20人規模から比べると大きくなりすぎるのではないのか。	児童数の多い学校では、少人数加配によって追加で配置された教員を活用し、授業によってはクラスを半分に分け、20人規模で学習に取り組んでいる。子どもの数が多くなっても、同様の手法で学習効果を高めることができると考えている。
4 ホームルーム等の活動では、学級を2つに分けるという手法は難しいと思う。また、そのような運用をすること自体、現時点では確定しておらず、選択肢の1つに過ぎない。統合せずに少人数学級を継続することと、統合して教科によって学級を分ける運用をすることのどちらにメリットがあると考えているのか。根拠とともに示してほしい。	少人数での学習は他の学校でも実施している。佐保小学校の規模であれば、加配の可能性は十分にあり、活用して学習効果を高めることができると考える。実際の加配の運用については年度ごとに考えるので、令和8年度に確実に実施すると現時点では言えないが、クラスを分けるという選択肢も含めて学校全体の教育を作っていくことはメリットである。
5 子どもたちの学力と学校規模の相関を知りたい。文部科学省が実施している全国学力学習状況調査の佐保小学校と鼓阪小学校のデータを教えてほしい。鼓阪の子どもたちの学力が高ければ、少人数による成果というふうに読み取ることができる。データを2校分合わせて示してもらえれば、納得するための判断材料になる。	全国学力学習状況調査は、学習の中で個々の学力がどの程度つきたかという把握と学校改善のために実施している。学校間での比較のために結果を活用することは競争を煽ることも繋がるため、全国的にも行っておらず、ご要望のデータは提供できない。教員の数については県の配置基準が決まっているが、今年度に開校したならやま小中学校については統合加配として、市費で教員を追加配置している。

通学について	回答
1 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」では、小学校の通学距離の基準が概ね4キロ、中学校では概ね6キロ以下とされているが、昭和33年に小学5年生と中学2年生を基準に作られたものである。その時代から自動車の台数が大きく伸びていることや小学校低学年の体力を考慮すると、これが適正な基準であるかは疑問である。	奈良市の場合は、遠距離通学費助成制度を活用しやすくするため、国の通学距離の基準を緩和して小学生で2キロ、中学生で4キロとし、助成対象を広げている。距離が長くなり子どもたちの負担が大きくなる部分については、遠距離通学費助成制度を活用していただければと考えている。
2 グリーンベルトだけで安全面が担保されるのか、この地域で車や徒歩で移動をしている住民の立場からすると疑問である。	鼓阪小学校区や佐保小学校区においては、グリーンベルト、路面表示など様々な対策を講じてきたが、まだ十分とは言いがたいところもある。状況に応じて、地域の皆様や保護者の皆さま、警察や道路管理者とともに合同点検を随時行い、危険箇所の対策に努めていきたい。
3 子どもに長い距離を通学させるのは、熱中症の面でも心配である。夏休みの期間も短縮されている。	通学距離が長くなると、熱中症のご心配があると思うが、学校においても水分補給や帽子をかぶること等の啓発を進めていく。

4	通学中は先生がおらず、誰も見てくれない。熱中症の面でやはり不安である。	校内においては、校舎やグラウンドへのWBGT計の設置、ミストの噴霧等の対策をしている。また、気温が非常に高い場合はグラウンドでの運動を控えるよう警報も発している。通学路での熱中症対策として、暑くなれば登下校中であっても水分をとるよう、引き続き子どもたちに注意喚起していく。
5	奈良県内の小学校の交通事故の特徴を見ると登下校中が最多であり、1年生は6年生に比べて2倍の危険性があるとのことである。校区が広がることにより、放課後に友達の家遊びに行くなど、子どもたちの行動範囲自体が広がることになる。集団登校をするとしても、通う方向がばらばらなので個々で通学する時間が長くなる。共働きの保護者も増える中で、どのように見守りをしていくのか。	集団登校について、拠点の出発地点では2、3人と少ないかもしれないが、途中で合流し、ある地点からは皆一緒に登校ができる。高学年の子が低学年の子を見守り、地域の皆様の見守りもありながら、安全に登校できると考えている。校区が広がることにより、友達との交流等で自転車移動も増えることについては、カーブミラーや一時停止線、横断歩道など必要となる安全対策については通学路と共通する部分もあるので、皆さまとともに合同点検しながら、徒歩、自転車ともに安全対策を講じていきたい。
6	通学が遠距離になると通学上の危険性は高まっていく。そもそも、危険箇所の設定と安全対策で防ぎきれぬか、疑問である。	距離が長くなると、その分、危険箇所は増えることになる。しかし、佐保、鼓阪地域にはある程度大きな道もあるので、地域の皆さまや警察とも検討の上、通学路の変更についても考えていきたい。
7	これまでは、ここは鼓阪の校区外だから1人で行ってはいけない、などと子どもに注意ができた。今後、校区が広がれば、放課後の行動についてどのように注意すればよいか。	学校教育の中でも、校区内の安全マップを作成し、保護者、地域だけでなく子どもたち自身の目で、どこが危険で交通量が多いか点検している。安全に通行するためのルールづくりや、互いの呼びかけなどは、教育の部分でカバーしていける部分であると思っている。見守り活動については、青色防犯パトロールも含め、地域の方の協力を得ながら進めていきたい。
8	飯守町の方から通学する時、セブンイレブンの近辺は徒歩ではかなり危ない。また、観光シーズンは渋滞がひどく、7時42分発のバスでも始業時間ギリギリに着ることが多い。帰りのバスは1時間に1本もないので、乗り遅れると待ち時間がかなり発生する。佐保小学校に通うことは現実的ではないと思う。さらに、奈良交通のバスがなくなるという話も聞いている。路線バスがなくなれば、どうすればよいか。	飯守町を通る路線バスの今後については、市の所管課に確認させていただく。
9	下校時間は学年によって異なるため、集団登校のような対策は難しいと考える。7時半から9時までを片側一方通行にしているのは登校対策であると思うが、下校対策をどのようにするのか。	下校時間についても通行規制をするとすれば、生活道路でもあるので、地域の皆さまのご理解・ご協力が必要となる。対策については協議させていただきたい。
10	子どもの命を最優先で物事を考えるべきであると思う。夕方一方通行にすることはいつ、どのような場で検討していただけるのか。	地域の皆さま、警察や道路管理者も含めた合同点検を行い、通学路の安全対策を講じる中で保護者からのご意見として取り上げ、検討していく。
11	通学の問題を解決するため、スクールバスを走らせることは難しいのか。	現在、路線バスが運行されている状況であるので、路線バスを利用していただき、通学していただきたい。

意見・要望	
1	私は小規模校の出身であったので、マイナス面を強調されるのは心外である。個人的な意見であるが、今の子どもたちにとって少人数というのは、決してマイナスではないと思う。
2	長距離通学は子どもの健康にも悪影響がある。塾通いなども加わり、生活リズムの夜型化が進むのではないかと。
3	一条通りは7時半から9時まで一方通行だが、スピードを出している車も多い。それ以外の時間は車が対向し、車道も歩道も狭く、低学年の子が事故に遭いやすいと思う。保護者としては、交通安全上の対策をきちんと整えた上で話を進めていただきたい。
4	これまでに鼓阪小学校で行ってきた東大寺正倉院等との連携、人権学習、近畿大学と連携したバラタナゴの保全活動等の取組の先行きが不安である。文化財を次世代に継承する観点でも、子どもたちが文化財のある場所で学ぶことが重要である。地域では6年ほど前から小学校を起点とした地域活性化の案について教育委員会や市長と協議する場を求め、連絡を待っている状態だった。国の手引の中にも、地域コミュニティの核としての機能や学校教育の直接の受益者である児童生徒・保護者、将来の受益者である就学前の子ども・保護者の声を重視し、地域の住民と理解と協力を得るなどして地域とともにある学校づくりの視点を踏まえた丁寧な議論を行うこと、と書かれている。今の進め方では急すぎて賛同できない。
5	保護者としてはスクールバスが一番安全安心であると思う。子どもの命を守ると思っているのなら、スクールバスを出せるはずである。